

## 研究主題「児童が調べ学習に主体的に取り組む指導の工夫

### —総合的な学習の時間における調べ学習の充実を通して—

東京都教職員研修センター企画部企画課  
 葛飾区立こすげ小学校 教諭 細川靖雄

#### I 研究のねらい

現代は、「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す『知識基盤社会』の時代」である。(中央教育審議会平成19年11月)このような知識基盤社会では、課題を見だし解決する力などが求められおり、総合的な学習の時間のねらいにも、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることが記されている。(中央教育審議会平成19年9月)

所属校では、課題の解決を目指して必要な情報を収集し、自ら考え判断することのできる児童を育てるため、各教科や総合的な学習の時間等で調べ学習を行っているが、児童は課題の設定につまずいたり、必要な情報を収集・選択できなかつたりするなどして、学習活動に必ずしも積極的に取り組めていない状況が見られる。

そこで、児童が調べ学習に主体的に取り組む指導の工夫をねらいとし、児童の調べ学習の学習過程を明らかにし、単元指導計画や教材・教具の工夫を行えば、児童は主体的に学習活動に取り組むであろうと考え研究を進めた。

#### II 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

##### (1) 調べ学習の学習過程と内容

文献や先行研究の調査から、調べ学習を、「児童が、提示された課題を基に自らが追究する問題を設定し、その問題を解決するための資料を収集して答えを導き出し、結果を分かりやすく伝える学習活動」ととらえた。また、調べ学習における学習過程を7段階とし、どの段階に指導の工夫が必要とされるのかを明らかにすることとした。(表1)

表1 調べ学習における学習過程の段階と内容

段階	内 容
提示	指導者が課題を提示する
設定	児童が課題に基づいて自分が追究する問題を設定する
計画	児童が問題を解決するための計画を立てる
収集	児童が問題を解決するために使う資料を探す
取り出し	児童が見付けた資料から、自分に必要などところを取り出す
まとめ	児童が調べて分かったことから結論をまとめる
発表	児童がまとめたことを他の人に発表する

##### (2) 児童の学習態度と主体性尺度

児童の学習態度を明らかにするため、児童の主体性に関する先行研究を基に主体的な学習態度が5因子から構成されると想定し(表2)、14項目からなる主体性尺度を開発した。この尺度を用いた質問紙調査を実施して、児童の調べ学習に対する学習態度を分析することとした。

表2 主体的な学習態度を測定する因子と内容

因子	内 容
好奇心	自らが関心をもっていることをやってみる
自己を方向付けるもの	自身の中で方向性を進める
自己決定力	自分が決める
積極的な行動	自らが主体となって積極性を強調する
自己表現	自分を表現する

#### 2 調査研究

##### (1) 児童の調べ学習に対する意識調査

東京都葛飾区内小学校第5・6学年児童127名を対象に、これまでの学習経験を調べ学習の学習過程ごとに問う質問紙調査を実施した。その結果、どの段階にも約4割から5割の児童が、困難を感じており、特定の段階に難しさを感じているのではないことが分かった。そこで、各

段階において困ったことがあると回答した児童の理由を整理したところ、児童が調べ学習に主体的に取り組むための課題が、次の3点に集約された。

第一に、問題意識の明確化の課題である。児童の主な理由は、提示・設定の段階では、「何を調べたらいいのかよく分からない」、取り出しの段階では、「どこが必要だか分からない」、まとめの段階では、「何をまとめればいいのか分からない」である。このことは、児童が自分の追究する問題の設定がうまくできず、そのために問題を解決するために必要な情報を選択できず、集めた情報を問題解決のために有効活用できずにいるのではないかと考えた。つまり、問題を設定する段階がその後の学習に大きく影響しているので、指導者は学習の初期段階で児童の興味・関心を喚起し、問題意識の明確化を図る必要があると考えた。

第二に、学習技能上の課題である。収集の段階で、児童は「探している本がどこにあるのか分からない」、「インターネットで調べてもなかなか見付からない」など、問題解決に必要な資料がなかなか見付けられず困っている。児童は、学校図書館の図書がどのように配列されているのかを知らなかったり、膨大なWeb情報の中で自分に必要な情報にたどり着けなかったりしている。また、発表の段階では、児童は「どういうふうに言えば、他の人が分かりやすいか」と悩み、声の大きさや話す速さに不安を抱え、発表の仕方について十分な自信をもてないでいることが分かった。このことから、児童には効率的な資料の検索方法や効果的な発表方法を身に付けさせることなどの技能の習得が、調べ学習を行う上で必要とされると考えた。

第三に、学習目的の認識の課題である。児童は「インターネットで資料を見付けるとき、途中で意味が分からなくなる」、「本はあったけれど、次に何を書けばいいのか分からない」など、学習の途中で自分が取り組んでいた課題や問題を見失っていると考えられる理由を記していた。このことから、児童は自分が追究する問題を常に確認しながら、調べ学習を進めていくことが必要であると考えた。

## (2) 調べ学習における児童の主体的な学習態度調査

授業研究を行う東京都葛飾区内小学校第5学年37名を対象に、各教科や総合的な学習の時間で行ったこれまでの調べ学習における児童の学習態度にかかわる調査を実施した。その結果(表3)、「自己決定力」、「積極的な行動」、「自己表現」が、児童の自己評価では「好奇心」や「自己を方向付けるもの」よりも値が低かった。一方、「好奇心」や「自己を方向付けるもの」の値が比較的高い。このことから、児童は自分の考えを言動に現すことにやや困難さはあるが、好奇心があり、目標が明確になれば、それに向かって取り組む姿勢があることが分かった。

表3 主体的な学習態度を測定する主体性尺度項目の内容と測定の結果

因子	主体性尺度項目	平均値			
		授業前		授業後	
好奇心	あなたは、新しいことをどんどんやってみる気持ちがありますか。	3.16	2.86	2.97	2.88
	あなたは、知らなかったことをすぐに調べようとしますか。	2.84		2.97	
	あなたは、知りたいと思ったことは、時間をかけてもやろうとしますか。	2.57		2.70	
自己を方向付けるもの	あなたは、自分なりの考えでいるいるなことを調べてみたいという気持ちがありますか。	3.08	2.87	3.03	2.97
	あなたは目標を立てて、その目標が達成できるように取り組みますか。	3.08		3.14	
	あなたは、友達の意見にまどわされずに、自分なりの考え方ができますか。	2.46		2.73	
自己決定力	あなたは、自分が考え出したよい意見でも、みんなに反対されると、すぐ自分が出した意見を取り下げてしまいますか。	2.46	2.78	2.57	2.86
	あなたは、自分一人でやることでも自分だけでは不安なので、友達といっしょにすることが多いですか。	3.27		3.16	
	あなたは、よく考えないで、友達の言葉を、すぐ信じてしまうことが多いですか。	2.62		2.84	
積極的な行動	あなたは、勉強を人に言われなくても、時間や場所などを考えて自分から進んでしますか。	2.64	2.74	2.76	2.81
	あなたは、勉強でつまづいたとき、自分の力で乗り越えようとしますか。	3.03		2.68	
	あなたは、自分一人でもやってみようという気持ちが強く、失敗をおそれないでやることができますか。	2.56		3.00	
自己表現	あなたは、今まで勉強してきたことをもとにして、自分の考え方や工夫を出すことができますか。	2.68	2.53	2.89	2.77
	あなたは、自分の考えを、進んで自分から言いますか。	2.38		2.64	
※4段階評定で評価 1:あてはまらない 2:ややあてはまらない 3:ややあてはまる 4:あてはまる				2.76	2.86

### 3 授業研究

#### (1) 指導の工夫

次の指導の工夫を単元指導計画に取り入れ、調査研究で明らかになった課題の解決を図った。

第一に、指導者は、初期段階で児童の興味・関心を喚起し、課題意識の明確化を図る必要がある。そこで、障害のある人のスポーツ参加に関するDVDの視聴や生き方に関連する読書等を活用して、児童の課題に対する問題意識を膨らませ、児童なりの課題追究を方向付ける。

第二に、児童には、資料の検索方法や発表方法など、調べ学習を通じて学び方を身に付けることが必要である。そこで、学校図書館案内図やインターネット検索早分かり表等を活用させ、児童が図書やインターネットを活用して効率よく資料を収集するための指導をする。また、よりよく伝えるためのポイントを示した発表練習チェック表を活用させ、児童がめあてをもって発表練習する場を設定する。

第三に、児童は、自分が追究する問題を常に確認しながら、調べ学習を進めていくことが必要である。そこで、今までの調べ学習の進め方を振り返り、児童が問題を解決するための手段や方法等のモデルを示し、学習活動の見通しをもたせるとともに、問題と資料や答えが対応しているかを自身で検討することができるワークシートを活用させ、調べ学習の各学習段階で常に児童が自ら設定した問題を振り返らせ、学習目的に対する認識を高める。

このほかに、調べ学習に対する意識調査の結果では、調べ学習に対して特に難しさを感じることなく学習を進めている児童も半数を占めていることから、学習の過程において児童同士で学び合うことも可能であると考えた。児童が学び合うことで気付きが生まれ、課題解決につながる主体的な学習を促進すると考えたので、児童間の学び合いの場も設定することとした。

#### (2) 総合的な学習の時間における研究授業の実施

平成19年10月から11月の間に、東京都葛飾区内小学校第5学年37名を対象に、調べ学習に主体的に取り組む児童の育成を図る授業を実施した。

① 単元名 「ほほえみをつなげよう」

② 本単元の目標

障害のある人のスポーツ参加や生活などについての調べ学習を通して、障害のある人や自分の生き方について考え、これからの自己の生き方に生かそうとすることができる。

③ 単元の指導計画（全5時間）

時	活動の意図	主な学習活動	指導の工夫
1	○障害のある人も私たちと同じようにスポーツを楽しんでいることに気付かせ、読書したことや感想を発表し合うことにより、障害のある人のスポーツ参加や生活などについて興味・関心をもたせて、課題に対する理解を深め、児童の問題意識を高める。	○障害のある人のスポーツ参加について知る。 ○障害のある人のスポーツ参加や生き方などに関する読書をした後、感想を発表する。	○DVDの視聴、読書等の活用
2	○疑問や知りたいという気持ちに基づいた明確な問題を設定させる。 ○問題や計画を発表し、聞き合うことで気付きを促す。	○これまでの調べ学習のやり方を振り返る。 ○障害のある人のスポーツ参加や生き方などについて、ワークシートに自分が追究する問題を設定する。 ○問題や計画を発表し、互いに聞き合う。	○既習学習を振り返り、問題を解決する手段や方法等のモデルとしてのワークシートの活用 ○児童間の学びの場の設定
3 4	○情報収集の手引きなどの活用を通して調べ方を身に付けさせる。	○資料収集のための学校図書館案内図等を利用して調べ学習に必要な資料を探す。 ○資料収集のとき、互いに知っていることを教え合う。	○学校図書館案内図、インターネット検索早分かり表等の情報収集の手引きの利用 ○児童間の学びの場の設定

		○調べたことを問題と照らし合わせてワークシートに必要な情報を取り出したりまとめたりする。	○問題を振り返る ○集めた情報をまとめるモデルとしてのワークシートの活用
5	○発表の仕方を身に付けさせる。 ○互いの発表を参考に発表の仕方を工夫させてよい発表の仕方に気付かせる。	○発表の練習をする。 ○調べてまとめたことを発表する。 ○自他の発表を振り返り、発表のよいところを伝え合う。	○発表練習チェック表の活用 ○児童間の学びの場の設定

### (3) 授業実践の結果

DVD の視聴や関連する図書を読んだりすることで障害のある人のスポーツや生き方などについて興味・関心が高まるとともに、児童は、障害のある人でもスポーツを楽しむことができることに驚いたり、「なぜ障害者のスポーツがあるのか」と疑問や感動した場面を友達と伝え合ったりしたことを通して、自分が追究する問題の設定につなげていた。

学校図書館案内図やインターネット早分かり表等を活用することで児童は、学校図書館内で自分に必要な資料がある場所の見当を付けてから資料を探し出したり、検索サイトで進んで二語検索の方法を利用して必要な情報を探したりするなど、自分が追究する問題の解決を図るために必要な資料を効率よく見付け出していた。また、発表練習チェック表を活用した練習を取り入れることで児童は、聞き手を意識したり、大事なところを強調するために資料を提示したりするなど自信をもって発表していた。

自分が追究する問題を常に意識させて学習活動に取り組ませたことで児童は、問題を解決するための情報の有無を確認しながら資料を選択し、集めた資料から必要な箇所を自ら判断して取り出していた。

## Ⅲ 研究の結果と考察

### 1 調べ学習における児童の学習態度の変容

授業実践の後に、研究授業における児童の学習態度について再調査した。その結果（表3）は、授業後に「自己を方向付けるもの」、「自己表現」などの値が上がっていた。このことから、児童は自分の考えを伝えることに自信をもち、好奇心を生かし、明確な問題意識をもって、目標に向かって自分の力で積極的にやり遂げようとする姿勢で授業に臨んでいたことが分かった。

### 2 授業研究の考察

指導者が映像や図書等を活用して、児童の調べ学習の課題に対する興味や関心を喚起することは、児童に対して課題のイメージを膨らませ、児童の問題設定を容易にすることが分かった。

学校図書館案内図や分かりやすく伝えるためのポイントを提示して、資料検索の方法や発表の仕方など調べ学習を進める上で必要とされる技能の習得面にも留意して指導をすることで、調べ方や伝え方などの学び方について授業を通して具体的に身に付けることができる。

児童が自分の追究する問題を振り返るワークシートを活用することで、見付けた資料の有効性や導き出した答えの妥当性を確かめられることが分かった。児童が追究する問題を常に意識することで、次の段階の学習活動を振り返りながら進めることが必要である。

## Ⅳ 今後の課題

司書教諭や学校司書等と連携して幅広く映像資料や関連図書等を収集し、それらを活用した授業づくりを行っていく必要がある。また、学習課題ごとに課題に関係する資料や情報を収集する際に利用できる調べる手がかりを説明した教材を開発することが必要である。さらに、開発した主体性尺度を他の教科等の学習活動の評価にも活用し、授業改善を行っていく。